

## 第3回こども文化科学館展示リニューアル検討委員会 要旨

### 1 委員会名称

広島市こども文化科学館展示リニューアル検討委員会

### 2 開催日

令和5年2月1日～2月10日（書面による意見交換）

### 3 参加委員

広島大学大学院人間社会科学研究科 教授	磯崎 哲夫(委員長)
大阪市立科学館 副館長（兼）総務企画課長	吉岡 克己
一般社団法人広島県発明協会 常務理事・事務局長	熊野 弘子
広島市立城山中学校長（広島市中学校理科部会長）	原田 忠則
広島市立八幡東小学校長（広島市小学校理科部会長）	久保田 祐徳
広島市地域活動連絡協議会（母親クラブ）	瀬戸口 ひとみ

### 4 議事

修正事項等に関する意見交換

令和5年1月27日開催の第2回検討委員会における意見交換等を踏まえて作成した修正案を、2月1日付けで委員長から各委員に提示し、これを受けて提出された各委員の意見及びこれに対する委員長の意見を2月10日に各委員に報告する形で行った。

### 5 委員会資料名

広島市こども文化科学館展示リニューアル基本構想策定に関する資料  
【第2回検討委員会後 委員長修正版】

### 6 意見交換の概要

各委員から提出された主な意見及びこれに対する委員長の意見の内容は、次のとおりである。

#### (1) 展示リニューアルの方向性

・「広島らしさの魅力発信」に関し、こども文化科学館の連携先として、広島商工会議所、中国経済連合会などを通じて連携の依頼をすることもあることから、関係団体を追記してはどうか。教育機関等の等の中に含まれるのであれば、そのように解釈したい。

→(委員長の意見) 地元企業等との連携において、これら企業等に通じる広島商工会議所や中国経済連合会等関係団体を介した調整、連携は必要であり、有効であると考えている。この文章は、実際の展示内容に関わる連携先を主に記載しており、関係団体は、「等」の中で読み込む。

・「広島らしさの魅力発信」に関し、タイトル含め修正後2か所に「広島らしさ」の文言があるが、この文言に県民性や地理上の特性を強くイメージする方がおられ、市の意図を誤解されることを懸念する。「広島ならでは」か、あるいは、少し弱くなるが「らしさ」を取る

ことも検討できると思う。

→(委員長の意見) 地元企業との連携による展示内容あるいはサイエンスショーなどは、地元企業の持つ科学技術に関するものであり、広島市固有の科学技術に限定するものでもない。このため、御意見のとおり、誤解が生じる懸念もあるため、「広島の魅力発信」とする。

- ・「子どもを中心としつつも、幅広い世代が科学を楽しみ、学べる展示展開」に関し、本文中に「大人も含め幅広い世代が、」とあるが、大人を含まない「幅広い世代」はないように思う。言いたいことは単に幅広い年齢層といっても幼児から高校生ではなく、大人も含めるということだと思うので、「世代」を「年齢層」に代えてはどうか。

→(委員長の意見) 「大人を含む」を削除し、「世代」は残したままとする。

- ・「社会的な課題に対する学びの充実」に関し、感想として、「こどものためのミュージアム」という言葉は、科学館は、幅広い世代が持続的に訪れることを目指すが、やはりメインは子どもであることから、「こどものためのミュージアム」として今もこれからもあるのだということが打ち出されてよいと思う。

## (2) 展示分野

- ・「展示内容が陳腐化しないよう、移動式・入れ替え可能にするなど、可変性の向上に配慮する。」とあるが、「可変性の向上に配慮する。」が少しわかりにくく感じた。例えば「フレキシブルな内容更新に配慮する。」といった言い方が的を射ていないか。

→(委員長の意見) 「展示内容が陳腐化しないよう、移動式・入れ替え可能なものにするなど、展示更新が柔軟にできるよう配慮する。」とする。

## (3) 展示展開の考え方

- ・「創造とチャレンジ」の“チャレンジ”という言葉に関し、「挑戦」や「困難な課題や未経験なことに取り組む」といった意味合いがあると思うが、『チャレンジする心』とは何を指すのかを日本語に置き換えるのがよいのではないかと思う。今のままで解釈するとチャレンジが「やってみよう」のレベルで留まってしまわないか、ここでは「驚きと不思議→発見と学び→」の次のキーワードとして、インセンティブ（動機付け）の意味合いにならないかと思う。変更を希望するわけではないが、「こどものためのミュージアム」が大人もともに関わり、現代的な課題を解決していく姿勢（もしくは解決に向けた意欲を引き出す）を育成する言葉がないだろうか、と感じた。

→(委員長の意見) 「広島市こども文化科学館条例」第1条に目的として、「こどもの文化及び科学に関する興味と関心を高めて、創造性を喚起するとともに、向上心をかん養し、もつて社会教育の発展に寄与するため、広島市こども文化科学館を設置する。」と規定している。この規定も参考にしながら、結びとして、「創造とチャレンジ」という言葉にされている。

この「向上心」とは、高い目標を目指し努力する心、成長しようとする心、達成意欲でもあり、委員から御意見のあった「現代的な課題を解決していく姿勢（もしくは解決に向けた意欲を引き出す）を育成する言葉」にも通ずるものであると考える。

※ 上記報告に合わせて、委員長から、今後は、本検討委員会での意見等を踏まえ、広島市において、こども文化科学館展示リニューアル基本構想(案)として整理、検討し取りまとめることとともに、各委員が広島市こども文化科学館をより魅力的な施設とするため、意義のある議論ができたことに対しお礼が伝えられた。